

令和元年度 第2回 昭島市社会教育委員会会議・要点録

開催日時／会 場 令和元年5月23日（木）午後7時00分～8時00分 昭和会館
出席者 谷部議長、中村副議長、長瀬委員、稲垣委員、濱田委員、松本委員
二ノ宮リム委員、吉村委員
欠席者 佐伯委員、齋藤委員
事務局 伊藤社会教育課長、川崎社会教育係長、来住野社会教育主事

1 開 会

＜配付資料＞

- 資料1 研修会プログラムについて
- 資料2 生涯学習サポーターの会まなぶン令和元年度実施事業一覧
- 資料3 令和元年度 東京都市町村社会教育委員連絡協議会役員会等事業日程表（案）

- ・昭島市月間行事予定表 6月
- ・あきしまの青少年 No.254
- ・第50回関東甲信越静社会教育研究大会埼玉大会

2 議 題

（1）研修会「市民のニーズを活かす・つなげる あきしま会議」について（資料1）

※事務局より、資料1について説明

議 長 報告書用のフォーマットについては早めに用意したい。

委 員 複数回参加されているかたには、その後の変化を書く欄もあるとよい。

（2）第30期テーマに向けて

議 長 平成26年度の建議「昭島市における地域の活性化に向けた社会教育について」を読んで、その後どう活かされてきたか、どう地域の活性化が進んでいるかを出し合うということになっているのでお願いしたい。

※事務局より、資料2について説明

委 員 9ページ以降第4章が提言となっている。中でも11ページの「地域に向けた方策」がまさしくあきしま会議の原点になっているのではないか。あきしま会議にも職員の参加が見られ、職員にもつながることが必要だという意見も聞かれるようになっている。9ページの下の方には「地域の成り立ちを学ぶ」という言葉もあり、アキシマクジラも活用しながら広げていけるのではないかと思う。

委 員 大変良い建議だ。この中でつつじが丘地域の地域防災の事例について記載されているが、これはその後さらに広がって、災害時に瑞雲中学校が避難所となっているプレイシアとつつじが丘ハイツ以外の第15ブロックも防災訓練に参加するようになった。それはつつじが丘ハイツから瑞雲中学校へ通う生徒が少なくなり、逆に第15ブロック地域

から中学校へ通っている生徒が増えたことによる。そのためこれまでのやり方では生徒たちが自分の居住地域ではないところで防災訓練をすることになってしまい、具体的にいうと中神駅の近くに住む生徒たちが、ハイツの高齢者を助けるための訓練をすることになってしまうので、新たな地域が関わるようになった。

議 長 他の中学校でも自治会を巻き込んでの防災訓練が行われていると聞いている。9ページ以降の提言がその後の地域の中でどうだったのかの検証をしていきたいと考えている。検証と同時にボランティアの関わりについても考えていきたいと考えている。

委 員 建議の中で情報の発信についても書かれているが、これは今でも情報の発信がうまくいっていないと感じるほど市民意識調査の状態は変わっていない。建議の中ではガイドブックやリーフレットの作成ということが書かれているが、あるところでリーフレットだけのコーナーを見た。例えばあいぽっくに行けば、あいぽっく全体のリーフレットなどが1階の入り口付近にあるだけでも違うのではないかな。リーフレットコーナーをつくることなどは、発展を見込めるところではないかと考える。掲示板の利用についても、まだ手が入られていないところであるといえるのではないかな。この建議はそういうところにも触れられているところがすばらしい。最後のイベントの活用のところでは、市民に「やらされ感」については気になったので考えていけたらと思った。この建議の内容がかなり実現されているのが「あきしま会議」だと思う。

議 長 これまでの建議や活動が少しずつつながっていると感じる。社会教育委員としての活動の原点になっている。

委 員 あきしま会議がつながるようなものになっているというところは方向性として間違っていないということであるし、そろそろあきしま会議の検証も必要だと思う。この中でも「あきしま会議」について何のためにやっているのか、それが実現されているかどうかを振り返るタイミングとしてはいいと思う。ボランティアについては、生涯学習の場としてのボランティアという意味だと思うが、なんのためにやるのか、自分たちの活動を見直すためなのか、もっと広い方々に主体的関わってもらうための方策なのかその動機を明確にするとよいと思う。

議 長 あまりにもボランティアの意味が広すぎて、我々がきちんと理解しておきたいということがひとつと、そのうえで我々の社会教育活動の中で、ボランティアをより身近で楽しいものとするためにどういうことができるのかということを考えたいと思っている。

委 員 あきしま会議の中でボランティアの話を入れるというのも、参加者にボランティアの言葉について考えてもらうということだろうと思うが、ボランティアという言葉は一切使わないで活動している人もいると思うが。

議 長 各団体でボランティアの言葉の使い方も千差万別ではないだろうか。社会教育委員として自信を持って伝えられるようになりたいと思う。意識していなくてもボランティア活動だと言えるものがあるのではないかな。

委 員 その方々がボランティアという言葉について考えたときに、何を得るかを考える必要がある。ボランティアという言葉もそうだが、いろいろな報告者がさまざまな活動をしていることが、昭島の生活をより豊かにする、地域全体を良くすることにつながる

る市民としての参画を行うということを共有するということではないだろうか。ボランティア活動への温度差は、そもそも活動を行う人の自主性によるものなのでさほど関係ないといえる。

議長 ボランティアの概念について学ぶ機会というのは一般の人にとって少ないと感じているので、やはり誤解も多いのではないだろうか。

委員 志を同じくしているかどうか関係があると思う。志を同じくしているものが自発的に集まって活動するのがボランティアと考えたがどうだろうか。

委員 ボランティアという言葉について学ぶというより主体性について考えたときに自分たちの活動が参加している人たちの主体性をどう実現しているかということを考えるということだろうかと思う。

3 報 告

(1) 令和元年度第1回国内交流事業運営委員会について (5/1)

委員 今年度の予定は、8/2(金)～8/5(月)に岩泉の子供たちを受け入れ、シマダヤの工場見学、パレード参加などを予定している。昭島の子供たちの派遣は8/17(土)～8/20(火)となっており、詳細は次回以降となっている。今回の団長は青少年委員、副団長を社会教育委員が担う。その他、会計などを決定した。次回以降詳細を話し合う。

(2) 関東甲信越静社会教育研究大会(東京大会) 実行委員会事務局打ち合わせについて (5/22)

事務局 令和3年度の東京大会に向け、事務局で打ち合わせがあったので報告したい。今年度中に、大会概要(企画案・予算案)を三鷹市、青梅市、府中市が中心となって企画していく。実行委員長は輪番とし、昭島市は令和2年度、3年度に副実行委員長となる。来年度の大会は新潟で行われるため、来年度の会長市であり実行委員長市である青梅市の方がプロモーションに行かれる。意見として大会開催の見直しということも必要なのではないかということも出たが、東京大会は実施するという方向で進めていくことになった。

委員 東京都からの支援はないのか。

事務局 引き続き要請していくとのことだった。

次回

6月20日(木) 午後7時より 昭代会館1階

7月25日(木) 午後7時より 昭代会館1階